



学校だより ウルムス

～友達を思いやり、友達とひびき合う心～

学校ホームページ <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kamariyaminami/>

平成29年1月31日

2月号

横浜市立釜利谷南小学校

校長 鈴木 秀一



ある日の校内の研究のこと

副校長 内海 司馬

小学校は、中学校などと違って学級担任がいろいろな教科を受け持ちますが、研究にとってはよいこともあります。みんなが一つの教科に重点をかけて研究を深めていくことができるというものです。本校ではそれを重点研究と呼んでいます。昨年度に続けて今年度は国語科をみんなで掘り下

げていこうということになりました。

今年度、最後の授業をともなう重点研究会は1月23日に行われました。講師の先生は本校前校長 田中綾子先生と、前白幡小学校校長の永池啓子先生がいらっしゃいました。他の回には、教育委員会の指導主事の先生も指導に見えました。今回は2年五味先生、3年日野先生、5年高橋先生が授業公開しましたが、このように毎回3人ぐらいの先生方が授業公開をします。1年間のうちにどの先生も授業を公開します。授業のあと、研究会をもちます。そこで、その日の授業の成果と課題についての話し合いがおこなわれ、最後に講師の先生によるお話があります。講師の先生は毎回その教科に堪能な先生をお呼びしているので、教科における横浜市の動向や文科省の考えなどの話が入ります。このようにして、先生方も、子どもたちとともに勉強をし続けています。

先生は年度当初に、自分の公開授業をやる日程が決まるとまず、国語なら単元を決めます。次のどの場面をやるか決めます。さらに研究主題（今回は「伝え合い、学び合う子どもの育成」～自分の思いや考えを表現する力が身に付く言語活動のあり方～）を考えて授業を組み立てていきます。言語活動については、国語科だけでなく全教科等で行っていくことになっていますが、多様な言語活動が考えられます。今回も、「紙芝居」、「音読発表会」、「飛び出しカード」といろいろな活動を組み入れていました。また、「自分の思いや考えを表現する力」ということをねらっているので、教師が黒板の前で、中心となって話をすすめていく学習形態だけでなくグループになったり二人組になったりといういろいろな学習形態が見られました。このような研究が、日々の学習に生かされて授業力アップになっていくと考えます。

